

次号予告

特集 交通計画

広域震災を受けた道路ネットワークの復旧過程予測システムの開発
 ……川島一彦, 杉田秀樹(土木研究所)

交通環境計画のための意思決定支援システム
 ……森津秀夫(神戸大学)

交通計画におけるネットワーク最適化
 ……朝倉康夫(愛媛大学)

交通計画とマーケティング科学アプローチ
 ……屋井鉄雄(東京工業大学)

関西国際空港人工島建設における情報化施工
 ……鈴木慎也, 南兼一郎(関西国際空港)

事例研究
 生産日程計画作成のヒューリスティック・アプローチの一考察
 ……浪平博人(産能短期大学)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	若山 邦紘	法政大学
副委員長	浦谷 規	法政大学
委員	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	城川 俊一	東洋大学
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	小池 将貴	筑波技術短期大学
	逆瀬川 浩孝	筑波大学
	坂本 善博	富士通㈱
	新村 秀一	住商情報システム㈱
	高橋 真吾	東京工業大学
	高橋 敬隆	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	山下勝比弘	㈱東芝
	吉田 敏弘	ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社

編集後記

新年おめでとございます。年が変わると、今年こそは、と考えることが必ずあるものです。それが良いことだけならよいのですが、神奈川県に住んでいる私としては周期的にはもうそろそろといわれている関東大震災級の大地震に不安をつのらせています。

たとえば通勤途上、ふと不安に思うことがあります。今、大地震が起きたらどうしたらよいのだろうか。駅員は的確に誘導してくれるのでしょうか。列車が不通になるだけで駅構内が人であふれて身動きできない状態にたやすくなってしまふ現状では、災害時的的確な誘導など到底期待できそうもありません。さらにパニックが発生したら目もあてられません。そのような現場に自分が遭遇しないことを祈るのみでしょう。

地震にしても洪水にしても、人がいなければ、それは単なる自然現象で、災害ではありません。防災において「人」が最重要の要因であることは当然でしょう。異常な自然現象も人の行動も、どちらもそれだけで十分複雑

です。防災ではその両者を考慮しなければならず、単一のモデルや単一の学問体系の適用では到底扱い得ないでしょう。そこにはいわゆる多面的な見方が必要です。

防災や避難の分析という、シミュレーションがすぐに思い浮かびますが、今回の特集ではシミュレーションに関するものが3編、シミュレーション以外のものが2編あります。シミュレーションにおいてもその対象や視点はかなり異なっています。またシミュレーションでない青木氏と小林氏の論文は、防災の理念に直接関わるような問題を扱っています。ORを防災に適用する際のヒントが今回の特集の中から得ることができたことと思います。その際、シミュレーションだけに限りませんし、既存の技法を適用するだけでも限らないでしょう。「防災」という、要因間の相互作用も、要因自身の特性もよくわからないような複雑な対象にORを適用することで、その問題の構造が明らかになるようになれば、ORの懐も広がるのではないのでしょうか。

(高橋真吾)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成5年1月号 第38巻 第1号 通巻385号
 代表者 伊理正夫
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113
 編集人 若山邦紘
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)
 ●本誌への広告お申し込みは明報社 (3546-1337), 日経弘報社 (3563-2241) へ